

【実践事例（４）】

（村田町立村田第二中学校）

保護者等と連携した施設・設備の安全点検の取組

取組経緯

○同校においては、当初、夏休みに親子奉仕作業と合わせて実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、奉仕作業は中止し、安全点検のみを実施した。

取組方法

- 1 当日は、感染対策として、PTA会長・副会長・保体育成委員の11名と職員4名の少人数で点検。
- 2 4グループに分かれて、「安全」、「防災」、「衛生」の3つの観点について点検表に記入しながら、50分ほどかけて校舎内外を回り、場所ごとに危険箇所や新型コロナウイルス対策などで気になったことを丁寧に洗い出し、点検後には、全員で点検結果の共有を行った。

「安全」、「防災」の観点では、

- ・生徒用イスの座面にザラつきがあり、ささくれ立ってとげが刺さる危険がある。
- ・図書室の本棚の固定が必要。空いている本棚の本は不安定なので下段に移動した方がよい。
- ・体育館倉庫に破損して使えない卓球台等があるので整理や廃棄が必要。
- ・中庭や校舎の雨樋の腐食が進んでいて、破損が心配な状態。
- ・校庭の元風力計の錆がひどく、倒壊すると危険。校舎外の壁にひびがある箇所が複数ある。
- ・一昨年の大雨で浸水した部分の地盤が沈下して、タイルの隆起、ひびや破損があり心配。
- ・教室の窓の外側にすずめ蜂の巣があったので駆除したほうがよい。

「衛生」の観点では、

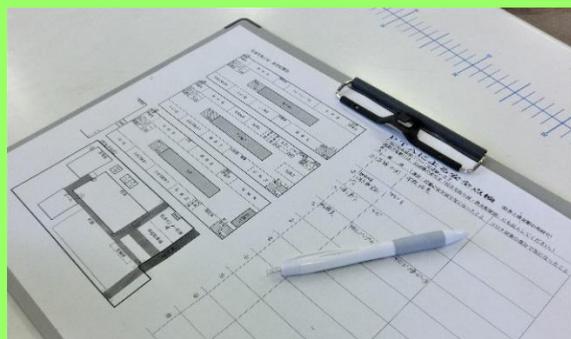
- ・コロナ対策として教室にサーキュレーターを置き、換気しながらエアコンと併用するとよい。
 - ・生徒会室やコンピュータ室などの特別教室にもアルコール消毒のボトルを置いた方がよい。
- などの気付きが報告された。

取組を通して

同校の校長は、「教員による安全点検は毎月1回行い、危険箇所については町教委にも迅速に対応してもらっているが、今回、保護者の目線での指摘に新たな気付きをいただき感謝している。これを今後の学校安全に生かしていくことが学校の責務であると感じている。この結果は早速、職員会議で共有しており、再度教職員の目で確認した上で、町教委とも連携し、子どもたちが安全・安心な学校生活が送れるように、修繕や廃棄すべきものの処理などを適切に行っていきたい」と話している。



↑保護者による安全点検の様子



↑点検は、校舎配置図と点検表により実施



↑点検実施後には、点検結果を共有